

人々の交流と対話を重視した観光振興を

研究開発部
秋元正弘

1990年代のいわゆる「失われた10年」は、勤労者世帯の消費支出の伸び率がマイナスとなった年度が5カ年にわたるなど、個人消費は低迷した。しかし、この間にあって日本人の外国旅行者数は大幅に増えた。そこで外国観光旅行について概観する。

<日本人出国者数は10年前の1.6倍>

日本人出国者数は2000年には1,781万人であった(図表1)。これはその10年前の1.6倍である。渡航先はアジアが47.6%、北米(ハワイ、グアムを含む)が31.0%、ヨーロッパが13.3%などとなっている。出国目的は81.8%が「観光など」である。個人消費が伸び悩んだにもかかわらず外国旅行者数が増えた理由としては、この間の円高(1米ドル:1990年末135.40円、2000年末114.90円)や、国際航空運賃の大幅な引き下げなどの影響が考えられる。

<外国人入国者数は日本人出国者数の3割>

一方、外国人入国者数は2000年には527万人であった(図表1)。これはその10年前の1.5倍であるが、日本人出国者数の3割にとどまっている。入国者ではアジアが61.1%、北米が16.9%、ヨーロッパが15.5%などである。新規入国者425万人の91.9%が観光などを目的とした「短期滞在」である。

世界観光機関(以下「WTO」)は、日本など133カ国が加盟する国際機関である。その資料によると、日本は、1998年の国際観光支出(除く輸送費用)が288億ドルと米・独・英に次ぐ4番目の支出国と

なっているが、国際観光収入は37億ドルと少ない(図表2)。入・出国者数以上に国際観光の収・支のギャップは大きい。

<世界の外国旅行者数は大幅増加の予想>

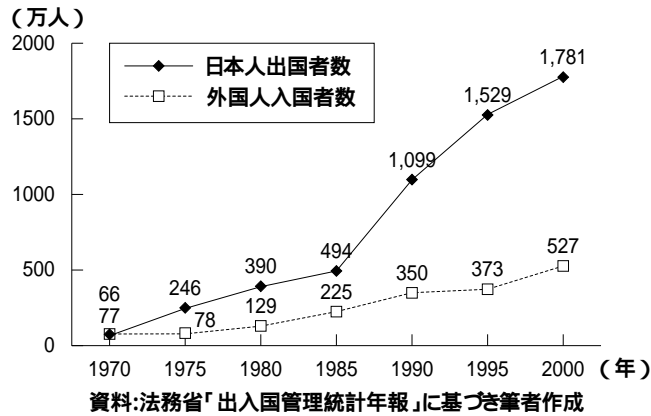
WTOはその長期予想で、外国からの旅行者数は全世界で、2010年には10億人で1999年の1.5倍、2020年には15億6千万人で同2.3倍に増加すると予想している(図表3)。特に東アジア(モンゴル・ミャンマーを含む)・太平洋地域は他の地域より増加率が大きく、2010年には同2.0倍、2020年には同4.1倍になると予想している。なお、外国旅行者数の約8割は地域内の旅行である。また、全世界の外国人観光収入は2010年には15,500億ドルと1998年(4,410億ドル)の3.5倍になると予想している。

<観光振興には交流・対話重視の姿勢が不可欠>

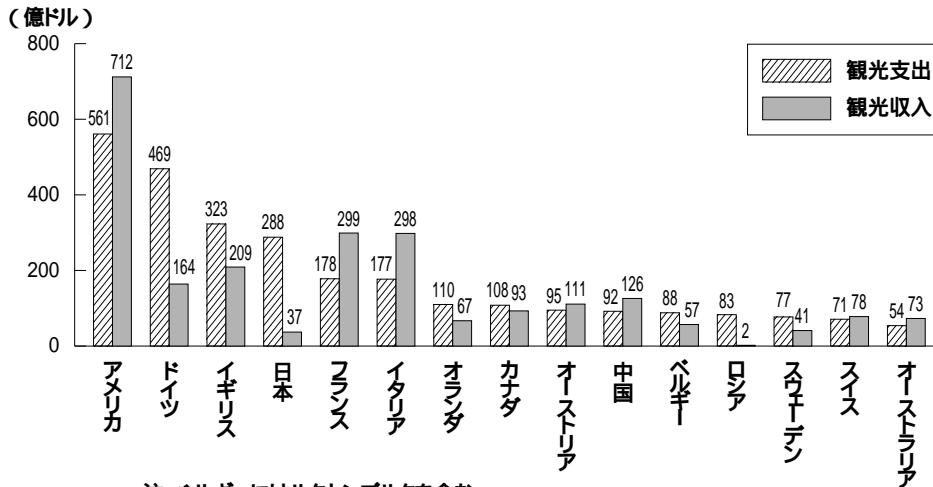
WTOは今年の「世界観光旅行の日」のテーマに「観光旅行 平和と文明間対話のツール」を掲げているが、最近の世界各地における種々の紛争や事件をみるにつけ、異なる宗教、民族、国家の人々の交流の重要性を改めて認識させられる。また、逆に、平和と対話をないがしろにして国や地域が、観光旅行の振興を図ることが難しいことは言うまでもない。

日本が観光振興を図るためには、個々の振興施策を策定・推進するだけでは十分でない。政府や自治体およびその首脳が、政策や言動において、外国の人々、特に東アジアの人々との関係で、人的交流と対話を重視する姿勢を堅持することが不可欠である。

図表1 日本人出国者数・外国人入国者数の推移



図表2 国際観光支出金額の大きい国とその観光収入額(1998年)

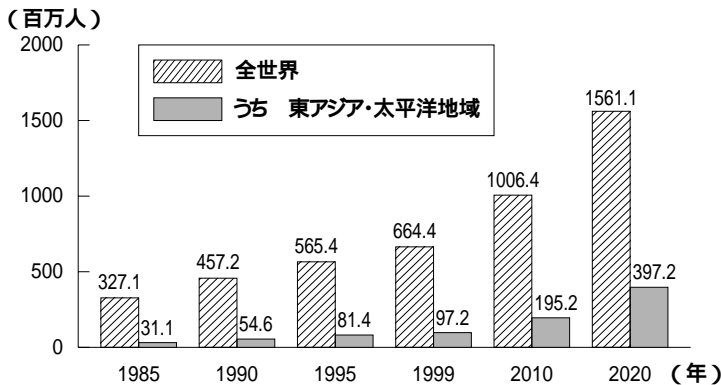


注:ベルギーにはルクセンブルクを含む

資料:World Tourism Organizationホームページ(<http://www.world-tourism.org/>)
 登載資料(2001年9月3日採録)に基づき筆者作成

LDI WATCHING

図表3 外国旅行者数の実績と予想



注:「うち 東アジア・太平洋地域」は到着数である。東アジアにはモンゴル、ミャンマーを含む
 資料:図表2に同じ